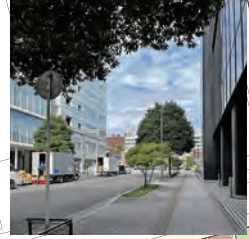


⑦つなぎ横丁から市庁舎への軸線



一番町商店街と定禅寺通の交差点からは、つなぎ横丁から市役所まで見通すことができる。

⑧つなぎ横丁



つなぎ横丁歩道からは街路樹もあり、市役所を視認することはできない。

⑨つなぎ横丁入口



市民広場入口周辺は、地下駐輪場への出入口シェルターや車止め、照明柱、柵等交などが建ち並び、エントランスとしての趣が感じられない。

⑩ステージ



広々とした市民広場は、イベント時にはにぎわいの景をつくり出し、そのまわりのケヤキやヒマラヤスギ等が豊かな緑の景をつくり出している。

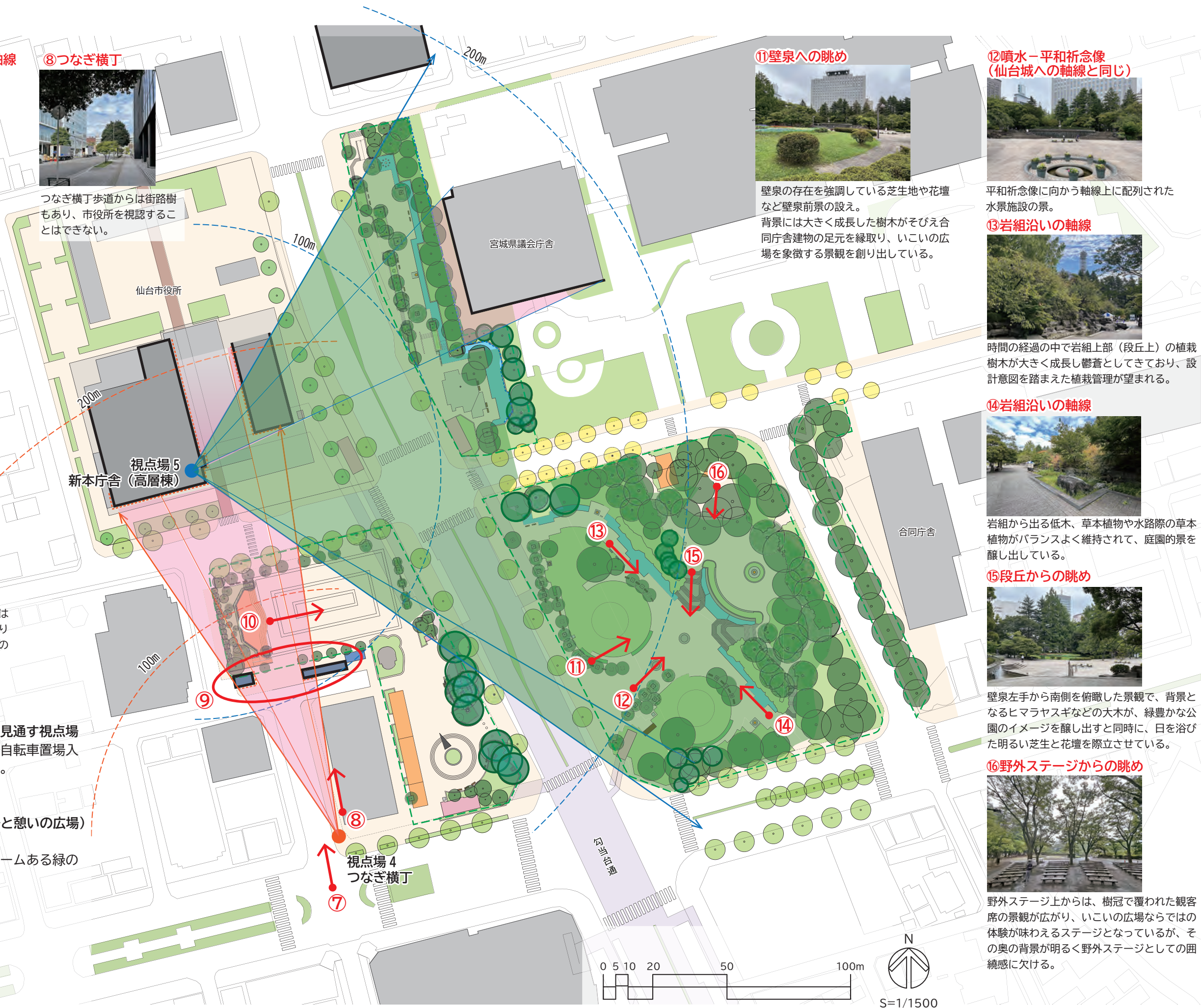
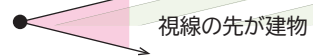
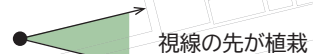
視点場 4

つなぎ横丁から新本庁舎方向を見通す視点場
新本庁舎までの通景が街路樹や自転車置場入口などによって阻害されている。

視点場 5

新本庁舎から、公園（歴史の広場と憩いの広場）
方向を俯瞰
県庁、合同庁舎の足元にボリュームある緑の景が広がる。

凡例



⑪壁泉への眺め



壁泉の存在を強調している芝生地や花壇など壁泉前景の設え。
背景には大きく成長した樹木がそびえ合同庁舎建物の足元を縁取り、いこいの広場を象徴する景観を創り出している。

⑫噴水-平和祈念像
(仙台城への軸線と同じ)



平和祈念像に向かう軸線上に配列された水景施設の景。

⑬岩組沿いの軸線



時間の経過の中で岩組上部（段丘上）の植栽樹木が大きく成長し鬱蒼としてきており、設計意図を踏まえた植栽管理が望まれる。

⑭岩組沿いの軸線



岩組から出る低木、草本植物や水路際の草本植物がバランスよく維持されて、庭園的景を醸し出している。

⑮段丘からの眺め



壁泉左手から南側を俯瞰した景観で、背景となるヒマラヤスギなどの大木が、緑豊かな公園のイメージを醸し出すと同時に、日を浴びた明るい芝生と花壇を際立たせている。

⑯野外ステージからの眺め



野外ステージ上からは、樹冠で覆われた観客席の景観が広がり、いこいの広場ならではの体験が味わえるステージとなっているが、その奥の背景が明るく野外ステージとしての囲繞感に欠ける。

3-3. 現況施設・彫刻の取り扱い

①にぎわいの広場 現況施設の評価と方針

ステージ、スロープ



広場とまちの軸上にあるため、平面形態も含めた配置検討が求められている。
雨天時対応や各種イベント利用に対応しうる機能、設備をといたニーズを踏まえた改修の検討が望まれる。

プランター

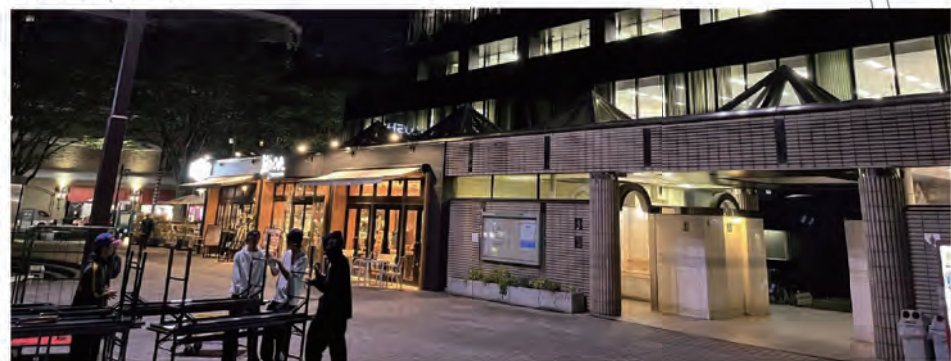


周辺空間（新本庁舎南側広場や歩道）との一体利用を阻んでいる。
美観上好ましくない状態にある。



市を代表する広場にふさわしいオリジナリティと美しさを備えたプランターに改修することが望ましい。

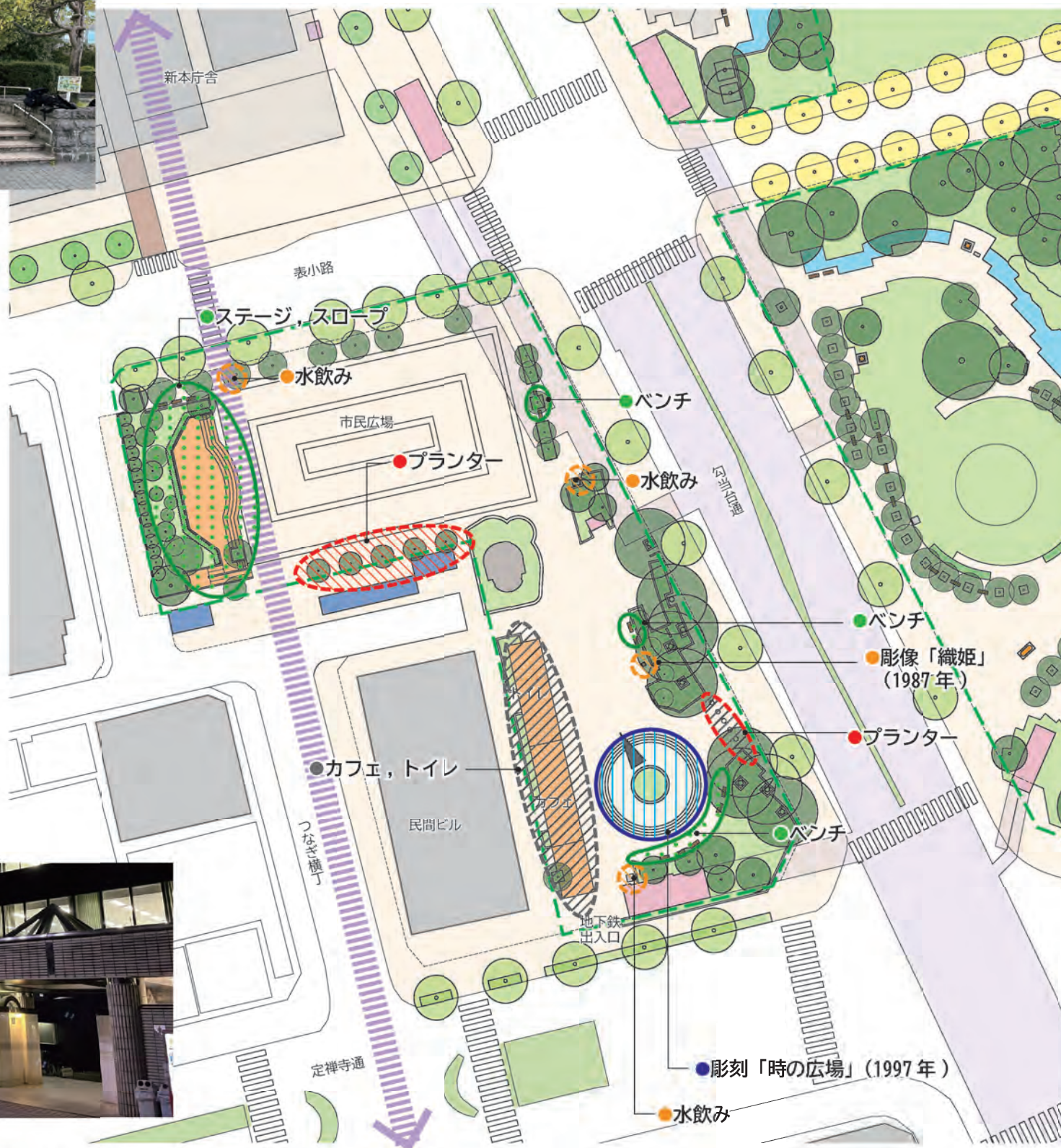
カフェ、トイレ



設置後年数がたち、機能面でも老朽化が進んでいる。
民間ビルと広場との間にあり、広場と民間ビルとの一体性を阻んでいる。



広場の開放性、民間ビルとの一体性などに配慮して、配置も含めた建替えの検討を行う必要がある。



彫像「織姫」(1987年)



寄贈された彫刻作品であるが、位置について特段の意図は読み取れないため、公園再整備計画に合わせ移設の検討を行う。

彫刻「時の広場」(1997年)



作品設置の背景、設置場所の意図及び再整備計画を踏まえて移設は行わない。

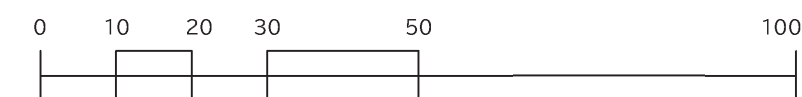
ベンチ、水飲み等施設



特段の謂れや記念性のない施設については、再利用可能なものを除き撤去を行う。
再利用する施設については、バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮して改修を行う。

凡例

- 保存を原則とする
- 改修・一部改修を検討する
- 移設を検討する
- 撤去を検討する
- 移設・建替えを検討する



S=1/1000

②いこいの広場 現況施設の評価と方針

壁泉・水路など水景施設



いこいの広場の主景をなす水景施設である。

再整備当時の設計意図（「竜の口溪谷」をモチーフ）を踏まえ、岩組と水路について極力現状のまま残すことが望ましい。

ベンチ、水飲み等施設



特段の謂れや記念性のない施設については、再利用可能なものを除き撤去を行う。再利用する施設については、バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮して改修を行う。

噴水



当初、仙台城への軸線上に配置された水景施設である。広場通行など利用上支障があるため花壇として利用されている。

広場計画に合わせ撤去が望ましい。

彫像「季の柱に」(1989年)



作品設置の背景、設置場所の意図及び再整備計画を踏まえて移設は行わない。

彫像「のぞみ」(1961年)



平和祈念像に次いで古い彫像で現在の位置にこだわった彫刻ではないが、広場の整備上支障来たさなければ現在の位置に保存する。



売店、トイレ



建築施設として機能面でも老朽化が進んでいる。視認性の悪い敷地北端にあり利用がしにくい施設となっている。

利便性を第一義とした建替えの検討が望ましい。

野外ステージ



老朽化が進み、ステージ設備も整っておらず観客スペースも狭く、大規模音楽イベントへの対応が難しい状態にある。

多様なイベント時に対応するため、ステージの向きや規模、設備を充実した改修が望まれる。

彫像「平和祈念像」(1959年)



戦後1959年に設置された彫像で、公園構成の軸（仙台城への軸）の起点となっている彫像であり、他への移設は行わない。

彫像「谷風梶之介」(1971年), 「志賀潔」(1969年)



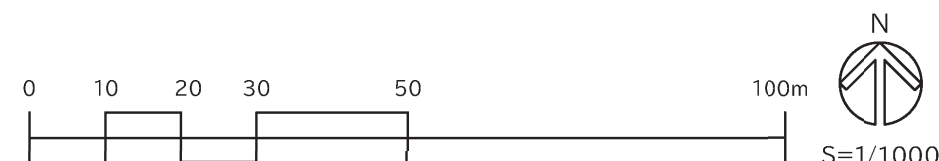
仙台に謂れのある人物像および寄贈された彫刻作品であるが、位置について特段の意図は読み取れない。

公園再整備計画に合わせ移設の検討を行う。

- 凡例
- 保存を原則とする
 - 改修・一部改修を検討する
 - 移設を検討する
 - 撤去を検討する
 - 移設・建替えを検討する



広場整備計画に合わせ移設を検討する。



③歴史の広場 現況施設の評価と方針

階段・スロープ、石積み植栽樹



交差点部にあり人通りが多い場所にあるが、人の流れに沿った階段スロープ、開口部にはなっていない。



現状の植栽樹、階段などを撤去し、人の滞留と、流れに対応する広場入口に改修することが望まれる。

ベンチ等施設



特段の謂れや記念性のないベンチである。



この広場の魅力を高め、ここならではのオリジナリティの高いデザインに改修することが望まれる。

古図広場



勾当台地区を中心に、仙台の街の歴史と構造を伝えるオリジナリティの高い施設（ジオラマ）であるが、老朽化が進み傷みも多く見られる。設置意図に反して来園者に利用されているとは言えず、広場の魅力アップに貢献しているとは言い難い。大面積の施設で、広場空間の持つ通行や滞留機能を阻害している。



この広場ならではのオリジナリティの高い施設であり、当時の設置意図を尊重し全面撤去は避け、見せ方、演出に工夫をして部分的（勾当台地区）に保存、活用することが望ましい。



水飲み、プランター



水路の景を阻害しているため、撤去することが望まれる。



水景施設 井筒 (九曜紋)



伊達藩の九曜紋をモチーフとした井筒であり、現状のまま残すことが望ましい。

石積みと水路



歴史の広場の主景をなす施設、設えである。



再整備当時の設計意図（「仙台城 城壁、四ツ谷用水」をモチーフ）を踏まえ、石積みと水路については大きく改変しないことが望ましい。水路については、幅が狭く視認性が低いため、親水性の向上にも配慮しステップを設けるなどの部分改修を行うことが望まれる。

彫像「林子平」(1977年)



仙台に謂れのある人物像および寄贈された彫刻作品である。



現状の位置に保存する。

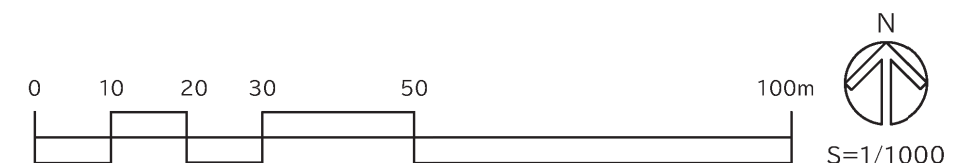
ケヤキ根囲い保護



3.0m×3.0m角の形状で鋳鉄製であるという希少性を踏まえ、通行に支障ないように配慮して保存活用することが望ましい。

凡例

- 保存を原則とする
- 改修・一部改修を検討する
- 移設を検討する
- 撤去を検討する



3-4. 現況樹木の取り扱い

①にぎわいの広場 現況植栽の評価と方針



新本庁舎南広場・表小路との一体利用に配慮する。

見通しの確保やグリーンインフラの効果に配慮して、ケヤキの保存、低木の伐採など適切な改修方法を検討する。



常緑高木（タブノキ）の並木だが、樹勢・樹形ともに良好な状態とは言えない。

大規模イベント時に新本庁舎南側広場と表小路と一体利用を考慮し現況高木並木の撤去するのが望ましい。



ステージの背景をつくり出している生垣と高木の列植は良好。ステージ脇の高木と低木植栽が、新本庁舎から南に延びる軸線に干渉する。

ステージの改修計画と整合をとりつつ、広場西側を縁取りステージの背景となる植栽改修が求められる。



市民広場の南側を縁取る緑としては樹形・樹勢が悪く美観的にも好ましくない。

仙台という地域性や地下駐車場上部の植栽基盤条件や樹木の美しさなどに配慮した樹種選定のもと植栽改修を行うことが求められる。



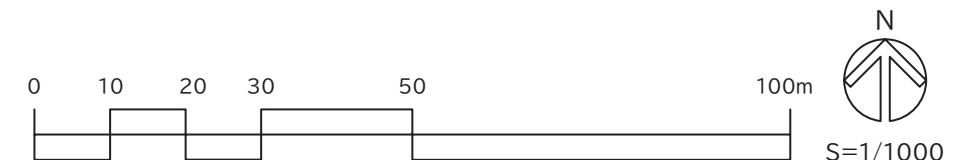
常緑高木（タブノキ）の並木だが、樹勢・樹形ともに良好な状態とは言えない。

地下通路工事に合わせ撤去した後、広場を囲う緑としてふさわしい樹形・ボリュームに配慮した樹種に変更する。

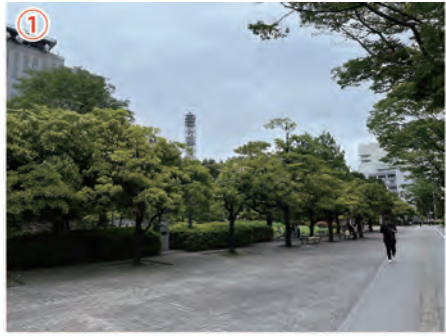


巨木化しつつあるヒマラヤスギ（保存樹林）によりボリュームとスケール感のある緑の景をつくり出している。歩道に近接していることから大木の倒木、枝折などによる歩行者への被害や交通への影響が懸念される。植栽地内は暗く、林床は緑のボリュームと彩りに欠けている。

定期的な樹木診断など安全確保に配慮管理が重要となる。街並みを彩るための花灌木や草本地被類の導入など多様で彩ある林床植栽へ改修することが求められる。



②いこいの広場 現況植栽の評価と方針



ベンチ利用者のために木陰を提供する樹木であるが、寒冷地に向かない常緑樹であり樹勢・樹形共に芳しくない。

伐採することを基本とし、地域の気候条件に合致した樹木を選定して新たに植栽することが望ましい。



大木化した樹木で構成され、杜の都を象徴するにふさわしい樹林景観を呈している。常緑針葉樹によって樹勢・樹形とも芳しくない落葉樹が見られ、人の立入りも加わって中低木類のない硬い土の林床となっている。

多様性に富んだ樹林に再生するため、季節感のある落葉樹の樹勢回復のため高密度な常緑針葉樹の間伐や新たな彩植物の補植などを行うことが望まれる。



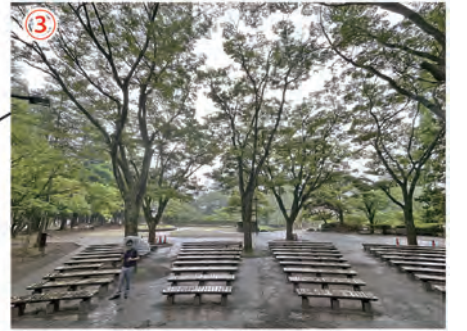
ヒマラヤスギを主構成木とした保存樹林で広場の背景林となり、沿道にも緑の景を提供している。常緑針葉樹主体であり、林床植物の少ない暗い林となっている。

公園内外に季節感や彩のある緑の風景を創り出すため、高密度な常緑針葉樹の間伐や落葉樹の補植などを行うことが望まれる。



斜面地形を生かした中低木の植栽となっているが、周辺高木の影響で生育状況は芳しくない。

水景施設の背景を彩る植栽として再構築する事が望ましい。



野外ステージ老朽化しているものの、観客席を覆うケヤキの樹冠や周辺の林によって、森のステージとしての趣を呈している。

ステージと観客席の改修にあたっては、現況のケヤキなど大木を極力残し、趣ある森の風景を継承することが望ましい。



時間の経過とともに段丘斜面にふさわしい植物が出現してきている。

現状の自然的な植栽を継承しつつ、一般利用者の共理解を得られるよう、植物名板や解説板の設置などを行うことが望まれる。

